

# NEWS LETTER

銀座街づくり会議・銀座デザイン協議会  
www.ginza-machidukuri.jp

〒104-0061 中央区銀座4-6-1 銀座三和ビル3F

Tel: 03.3567.1535 / Fax: 03.3563.0236 / E-mail: info@ginza-machidukuri.jp

\*このNewsLetterは、全銀座会会員、銀座街づくり会議関係者の方々にお送りしています\*許可なく無断で複写・複製および転用・転載することを禁じます\*

125  
2022-02-24

銀座街づくり会議・銀座デザイン協議会 「銀座デザインルール」第3版 発行記念シンポジウム  
世界と銀座 「街」の未来を共創する ― これからも「街」はあり続けられるか？

## 【Part3: Happy? 銀座が目指すべき「街」の豊かさを再定義する】開催報告

銀座はモノの消費と深く関わりながら、人との信頼関係から生まれる質的な豊かさを付加価値として「銀座」というイメージを守り育ててきました。モノ・コトの充実が並行して存在する銀座は今、人々のモノへの意識と行動の変化に直面しています。2022年1月

14日に開催したシンポジウムでは、齋藤充代表幹事の挨拶のあと、ニューヨークの重松健先生（NY在住建築家・都市計画家）とソウルの閔勝炫（ミン・スンヒョン）先生（都市計画家）に、コロナ禍の街の変化と、これからの街の姿についてお話いただきました。

昨年末、ボストン・ロンドン・ベニス・ミラノの4都市を巡ったコーディネーターの小林博人先生（慶應義塾大学教授）は、各都市の今を写真とともに紹介。「コロナ禍でも安全に人と会う場をつくろう」と通りを開放するボストンをはじめ、ロンドンもベニスにもぎわいが戻りつつあります。対照的なのは「驚くほど人がいなかった」という高級ブランドが立ち並ぶミラノのモンテナポレオーネ通り。人と混ざる場が生むにぎわい、質の高い商いがつくる風格。この両輪が共存する銀座は、これからどのような道を歩むのでしょうか。

### ニューヨークのチャレンジとハピネス

車道を歩行者空間に変えるなど、人を中心とした街づくりが進むニューヨーク。通りを人に開放するような新しいチャレンジには、少なくとも半年以上、社会実験を継続します。「試行錯誤の結果、みんながHAPPYになったものは法律を変えてでも実行」していくこと、つまり完璧なルールよりも「まずはやってみて、みんなで価値を体験すること」が出発点だと重松先生は語ります。また廃線跡を再生したハイラインを例にKK線再整備にも触れ、「どうすれば個性ある街を連結して相乗効果を生めるか」、そして、ハードありきではなく、ソフトを支えるためのハードづくりという考え方の転換が重要だと力説されました。

### ソウルインフラの再生から生まれるにぎわい

閔先生は、ソウルの河川と道路の歩行者空間化、そして鉄道路の公園再生の事例を紹介しました。いずれも交通・生活環境の悪化や商圏の衰退を契機に計画されました。インフラが人のための空間に生まれ変わったことで分断されていた地域が緩やかにつなが

り、「街は著しくにぎわいを取り戻し」たと語ります。公園管理のために住民自治団体が結成されるなど、市民の活動は活発化。「明確なビジョンと住民の意見を徹底して吸い上げたことが大規模な再整備の実現につながった」と合意形成のプロセスも紹介されました。

### 銀座が目指すべき「街」の豊かさを再定義する

昨年11月、香りを扱う店舗を銀座にオープンした、催事委員長の小仲正也さんは、「銀座でしか体験できない空間にこだわり」、「銀座の先輩から教わった銀座らしさを形にしたかった」と初めての小売店への意気込みを語ります。「リアルな空間における体験に価値はあるか」と銀座の商売の本質を問う小林先生に対して、「文化や技術を作る人々と直に触れ合える環境が今後の商業の新しいあり方になる」と重松先生はニューヨークの事例を挙げて応えました。

一方、街づくり委員長の東條幹雄さんは、「土地の値段と同じ率で商品の値段は上げられない」と、地価の高騰に苦しむ銀座の実態も示されました。

3回のシンポジウムを振り返り、石山さつき先生（日仏都市研究者）は、多様な人々が生きる街に、「自分が何を求めているのか」を追求して街を自分事と捉えることが大事だと語ります。中島直人先生（東京大学准教授）は、「銀座が新しいものを生み出し続けられたのはなぜか」と疑問を投げかけたうえで、伝統と革新をあらためて「見つめ直して、継承と同時に新しいものを生み出すシステムを積み上げていく必要がある」と指摘されました。最後に小林先生は、銀座は街の歴史や人の「継承から新しい革新を生み出すと信じている」と期待を寄せられました。